

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22228003	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	食品リスク認知とリスクコミュニケーション、食農倫理とプロフェッションの確立	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	新山 陽子 (京都大学・大学院農学研究科・教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究では、食品のリスク分析の中でもとくに、リスクコミュニケーションに焦点を当て、5つの課題（①リスク認知構造基礎研究、②双方向リスクコミュニケーションモデルの提示と実験、③フードコミュニケーションテキストの作成、④食品関係者の倫理および倫理的関係の研究、⑤食品技術者のプロフェッション基礎研究と制度構想）を設定し、学際的研究による分析手法の確立を目指したものである。

課題①②については、それぞれ、ある程度の進捗が見られ、成果についても、国際誌投稿論文の採否等を見なければ、確定的なことは言えないものの、十分、成果が期待できる状況である。しかし、課題③については、担当者の異動などの要因で進捗が遅れており、④⑤については、調査は実施されているものの、多くが調査結果の取りまとめの段階で、スクリーニングを受けた最終的な論文の形では公表されていない。

調書に記載された目標を、残り2年で達成するには、相当の努力が必要であると考えられる。

【平成27年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部上がらなかった。
A-	<p>本研究は、食品のリスク分析の中でも特にリスクコミュニケーションに焦点を当て、5つの課題（①リスク認知構造基礎研究、②双方向リスクコミュニケーションモデルの提示と実験、③フードコミュニケーションテキストの作成、④食品関係者の倫理及び倫理的関係の研究、⑤食品技術者のプロフェッション基礎研究と制度構想）を設定し、学際的研究による分析手法の確立を目指したものである。</p> <p>課題①及び②については、リスク知覚構造解析などにおいて成果が得られており、従来の研究に対して新たな研究貢献が認められる。しかしながら、これら研究の成果を踏まえて政策提言されるべき課題③、④及び⑤については、十分な成果が得られていない。特に本研究の目的は、現実社会の食品安全性向上に対して、具体的な政策提言ができるということが重要なポイントである。</p> <p>また、国際レベルでの研究成果の発表という側面においても、十分な成果を得ているとは言えない。</p>